

園芸科学科講座Vol.11 春の雑草

春、これから畑には作物とともに雑草も生い茂ります。
雑草を取り除くことを除草といい、作物を育てるためには大事な作業です。
えっ、抜いたらかわいそう？
・・・そう、その気持ちが「生命を学ぶ」ことの始まり。
どうして抜かないといけないのか、考えたいですね。
さあ、今回は畑で見つけた春の雑草を紹介します。

❀1年生、「農業と環境」の教科書、裏表紙のカラー写真も見てください。

❀家の周りに生えている植物を調べてみるのもいいですね。



❀スギナ (トクサ科)

シダの仲間なので花は咲かず種もできず、胞子で増える。胞子を作るのは地下茎から出るツクシ。
(筆者が子どもの頃、ツクシをとって煮つけて食べましたよ。)



❀ナズナ (アブラナ科)

先端に白い小さな花を咲かせる。ペンペン草とも呼ばれる。写真のようにたくさんついている三角形の果実を三味線のバチにたとえたとか(ペペンペンペン)。
ご存じ「春の七草」の一つ。

<春の七草>

セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・
ホトケノザ・スズナ・スズシロ



❀ハハコグサ (キク科)

茎も葉も白い細かい毛におおわれていて、先端に黄色の花を咲かせる。
「春の七草」のゴギョウのこと。
ちなみに、チチコグサ(キク科)という植物もあります。



総苞片
(そうほうへん)

✿セイヨウタンポポ (キク科)

外来種。在来種と違い、総苞片が反り返っている。

2・3年生は農業クラブの環境調査でおなじみですね。在来種の「カントウタンポポ」が見つかった人はいたでしょうか？

✿1年生、「農業と環境」の教科書、表紙のカラー写真 p3も見てくださいね。



✿カタバミ (カタバミ科)

三つのハート形が集まって一つの葉となっている。葉は朝に開き夜に閉じる。黄色の花もよく目立つ。葉が赤紫なのは変種のアカカタバミ。

この二つ、似てる？ 似てない？



✿シロツメクサ (マメ科)

三つのたまご形が集まって一つの葉となっている。小葉に白い模様が入ったものもある。白い花が球状になるのも特徴。

別名「クローバー」。四つ葉探しや花冠で遊んだ人も多いのでは？

Q：園芸科学科の畑の周りにはシロツメクサが多いですね？

A:シロツメクサはマメ科。マメ科の根には根粒ができます。その中には根粒菌が共生しており、空気中の窒素を固定しています。窒素は植物にとって大事な養分。肥料として役立ち、かつグラウンドカバーにもなるのでシロツメクサを生やしています。



畑の周りのシロツメクサ